

研究デザイン

亀山市立加太小学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針―1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針―1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

3. 研究主題

「伝えたい」「かかわりたい」「ひとを大切にしたい」と考える加太っ子の育成

～豊かな対話をめざして～

4. 主題設定の理由

本校では、自ら伝え、自らかかわる力を伸ばすために「対話」を大切にした教育活動を進めている。研修テーマである「伝えたい、かかわりたい、ひとを大切にしたい」という意思や力については、学習面はもちろんのこと生活面からも児童に身につけていきたいと考えている。

学習面では、算数科で複式学級のわたりの授業をしている。その日の日直が学習リーダーとして活躍する場面を設定し、どの児童も学習リーダーを経験すること、学年が上がるにつれて自分たちで学習を進めることができるようになってきている。また、ペアやグループで積極的に話し合いを進めたり、自然に教え合ったりする力もついてきている。一方で、課題に対し最後まで粘り強く考え、根拠を明らかにして相手に伝えるように説明する力が弱い。日々の授業や生活の中で、課題を解決するために論理的に考える力を養うことが必要である。

生活面では、たてわり班活動や全校集会など、学年の枠をこえて児童が互に関わる場面を意図的に設定することで、異年齢集団の良さがいたるところで見られる。その一方で、様々な場面で受け身的な姿があり、与えられた役割を果たすことはできるものの、自ら課題を見つけ、仲間と協力して課題を解決しようとする力は定着していない。

このような児童の様子から、自分の考えを伝え、周りと積極的にかかわって、自分からつながりをつくっていくためにも、「伝えること、かかわること、周りのひとを大切にする」力は不可欠である。そこで、算数科において、学習リーダーを活用した複式学級でのわたりの授業はもちろんのこと、単式学級においても子どもたちの主体性を育てることを意識した授業を展開することで、主題にせまる取り組みが実現できると考えた。

また、サブテーマである「豊かな対話」については、「自分の考えや思いを根拠をはっきりさせて相手に伝えるように表現できる」こと、「語彙が豊富で、時と場合に応じて、使い方を考え、表現できる」こと、「子ども同士、子どもと教職員や地域の人との関わりを深め、自分の考えを広げ深めることができる」ことを目指す。

5. 研究主題～つけたい力～について

《 伝えたい とは 》

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにしてまわりの子に伝えようとする意思と力
- ・周りの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる意思と力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じたときに、それに対して声を上げることができる意思と力

《 かかわりたい とは 》

- ・やりたいことや知りたいことを自分で見つけ、学習を深めることができる意思と力（物や事とかかわる）
- ・周りの友だちと協力して、一つの課題を解決しようとする意思と力（友とかかわる）
- ・興味をもったことや疑問に思ったことについて、地域の方や保護者、教職員との対話を通して、理解を深めようとする意思と力（大人とかかわる）

《ひとを大切にしたい とは》

- ・自分も周りの子も家族も地域の方も大切にする考えや気持ちを持つ
- ・周りの子の考えや行動を受け入れる考えや気持ちを持つ
- ・縦割り班活動以外にも、異学年とつながり、活動できる考えや気持ちを持つ

～ 豊かな対話とは ～

- ・自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる。
- ・語彙が豊富で、時と場合に応じて使い方を考え、表現できる。
- ・子ども同士、教職員や地域の人との関わりを深め、自分の考えを広げ深めることができる。



6. 研究領域

算数科・自立活動

7. 具体的な取り組み

(1) 授業づくりについて…今年度までに積み上げてきた「加太スタイル」をベースにして授業を行う。

《 加太スタイルとは 》

○児童の思いを出発点にした授業づくり

- ・毎時間のふりかえりに子どもが「もっと知りたいこと」や「疑問」を必ず書き、その振り返りをもとに次時のめあてを設定する。

○個々の子どもに応じた具体的な支援

- ・視覚支援やワークシートの工夫などをする。

○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の充実

- ・学習に見通しを持てる「めあて」を設定し、「ふりかえり」として求めたい内容を明らかにして取り組ませる。

○「活動カード」の提示

- ・授業の流れにそって「活動カード」を活用し、子どもたちが、自ら活動に取り組めるようにする。

○ねらいに即した学びの形態（ペア・グループ・一斉）

- ・目的に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ、学びを深める。
- ・ホワイトボード等を活用して、子どもの考えを可視化し、それぞれの考えの共通点や相違点を見つけさせる。
- ・ロイロノートのシンキングツールや共有ノート機能を活用して、考えを広げ、深める。
- ・「発表する→質問し合う・感想を伝え合う→振り返る」場を設定する。

○学習リーダーの活用

- ・低学年から段階的に学習リーダーを育成する。学習リーダーの役割や学習の進め方を理解させるとともに、他の児童にも学習リーダーに協力する態度を育む。

＜学習リーダーの活用例＞

- ・授業の初めに、活動の流れを伝える。
- ・問題の答え合わせをする。
- ・新出漢字の学習の司会をする。
- ・ペアやグループワークでの学習を進行する。

○対話を深めるための「話し方」「聞き方」の定着

- ・「対話」「聞き方」「話し方」チェックシートを活用して、全職員で子どもたちの目指す姿を共有し、実践を重ねる。また、毎月到達度を振り返る。

- ①研究授業を軸に日々、実践を重ねる。
- ・授業における視点児童を設定し、手だてが有効であったかどうかを考え合う。
 - ・事後検討について…参観の視点にそって意見交流し、子どもと指導者の「よさ」と「課題」を明確にする。何を学び、学んだことをどう生かすかを常に意識する。(研修の自分化)
 - ・各学期に1回、互見授業週間を設定し、参観者は必ず授業について意見交換を行う。

②個々のスキルアップを図る。

- ・各校の公開授業や学習会に参加する。
- ・各教員の疑問をもとに定期的にOJTを行う。

③人権教育カリキュラムやふるさと学習指導計画の検討を行う。

- ・人権教育カリキュラムを設定し、年間通じて計画的に学習を進める。
- ・人権サポートガイドブックを活用する。
- ・ふるさと学習年間指導計画をもとに、地域の方々との対話を通じて、子どもたちが学ぶ喜びをもち、主体的に学習に取り組めるよう学習の内容を工夫する。



(2) 子どもたちが言葉の習得を進めるための手立てについて

- ①辞書等を積極的に活用させる。
- ②図書館利用を促し、読書活動を通して文字に親しませる。
- ③三重の学-Viva!!セットやたしかめプリント等の各種プリントを活用する。
- ④様々な教科等での対話の場面を充実させる。

(3) 学級づくり・集団づくりについて

- ①個々の子どもをていねいにみつめる。
 - ・仲間づくりアンケート等をもとに教育相談を各学期に1回実施する。
- ②心にとめる子どもを中心にクラスや全校児童の変容を見る。
 - ・各クラスで一人、心にとめる子どもを設定し、その子とクラスの児童や全校児童のかかわりを見つめる。その際、「周りの子のかかわり方を変える」という視点を大切に、クラスや全校児童の変容を見る。
- ③日ごろから、子どもの姿を交流・相談する。
 - ・学年の枠を超えて子どもの様子を観察し、お互いに伝え合う。その内容を子どもに返していく。課題が見つかったらすぐに相談をかけ、具体的な手立て・方向性を考え合い、指導を行う。
- ④保護者の思いをつかみ、連携をはかる。
 - ・学校行事や懇談会など、保護者と顔を合わせる機会を利用して対話を充実させ、理解を進める。連絡帳や電話など、日々の連絡をこまめに行う。
- ⑤SSTに取り組み、よりよい対人関係の在り方を学ぶ
 - ・日常生活の子ども様子から、会話や行動の課題をつかみ、話し方や聞き方、あいさつの仕方など対人関係がうまくいくように全校でSSTに取り組む。その後、自分の言動について振り返りを行う。

(4) 学力向上にかかわって

- ①基礎学力の定着を図る…3つの取り組みのねらいと内容に結びつける。

○あさかぜタイム 月曜日 全校読書
火、水、木曜日 1年生…国語短時間学習
2年生…国語短時間学習
3・4年生…国語短時間学習
5年生…外国語短時間学習

○チャレンジタイム

- ・自主学習の内容を充実させる。

○はなまるタイム

- ・現学年の国語と算数の内容を習熟させる。月曜日の放課後を活用して、月1回、年間10回程度実施する。



- ②家庭学習の定着を図る。…家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて発信する。

自主学習を掲示し、紹介し合うことで、子どもたちの学ぶ意欲を高める。

タブレット端末を活用し、個別の課題に取り組むことで自学自習の習慣を身に付ける。

8. 研究構想図

